

インターバンクの声（2017 年 2 月 3 日）

一ヵ月余り前の昨年末から年初にかけてはドルが全面高で、ドル/円が 118 円台、ユーロ/ドルが 1.03ドル台、豪ドル/ドルも 0.71ドル台までドル高が進んでいた。当然ドル指数も直近のピークだったが、それが足元では昨年11月中旬以来の水準まで低下しており、トランプ米大統領の言動、今晚の米雇用統計、さらには独大統領選挙と続くイベントを通してさらに低下するかも知れない。

ユーロ/ドルは英国の欧州連合 (EU) からの離脱問題、豪ドル/ドルは中国経済の安定化や自国経済の進捗による影響を強く受け、両通貨とも 11 月中旬のドル安場面よりもユーロ高、豪ドル高が進んでいる。

その一方、ドル/円は 11 月末に付けた 112 円水準で円高が止まっている。仮に 11 月中旬の水準まで円高が進むと想定すれば、109 円から 110 円の水準なので、あと 2, 3 円ほど円高が進むことになる。

ドル指数の構成通貨がこの 3 通貨だけではなく、各通貨がいつも同じ方向に動くわけではないが、足元のバイアスがドル売りに傾いているのは明らかだ。

ニューヨーク市場終盤にかけて 112 円台後半に持ち直してきたドル/円だが、113 円台に乗せるのと、112 円台半ば方向へ再度下落して米雇用統計を待つのかでは、今晚の展開も大きく変わることになる。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。